

卒業生の在学時における学業成績（GPA）と 国家試験合格との相関関係について

中村 哲也

長野救命医療専門学校 事務局

Correlation between Academic Achievement (GPA) of Graduation Students and Passing of National Examination

Tetsuya Nakamura
Nagano Paramedical College

要旨：専門学校の最大の使命は、学生を「社会のニーズに応えられる人材」に育てることである。そのためには国家試験合格は不可欠であるが、本校の卒業生の実績は、全国平均は上回っているものの、唯一100%を達成したのは救急救命士学科4期生のみである。一方で近年の基礎学力低下が著しい中、今後、全卒業生に資格を取得させる対策をとるために、学業成績と国家試験合格率の相関関係を分析し、今後の修学指導の参考資料としたい。分析の結果、合格率を上げる基準としてGPA平均値（＝3点満点で救急救命士学科2.18、柔道整復師学科2.28）を上回ることが、ボーダーラインになることが分かった。

キーワード：基礎学力低下、教育の無償化、学業成績（GPA）、国家試験合格率

1. はじめに

(1) 専門学校の使命

専門学校の最大の使命は、学生を「社会のニーズに応えられる人材」に育てることである。そのためには、資格取得と技術習得は不可欠である。しかしここ数年、入学生の基礎学力低下が顕著に表れ始め、資格取得までの学力向上のためには基礎学力の構築を余儀なくされている。このような状況は20年以上前から、既に大学でも始まっていた。

(2) 教育の背景

～ゆとり教育・少子化・高等教育の無償化～

これまでの学力低下は、ゆとり教育による学習時間の減少、少子化による全入時代の到来など様々報じられているが、はっきりした原因は見出されていない。それにもかかわらず、現場を知ら

ない“教育者まがい”の評論家たちは、「日本人の学力は下がっていない」と発している。結局、その原因さえも追究せぬまま現在に至り、結果的に学力の格差は大きくなっていると推測される。

一方で2010年度の高等学校の無償化から始まり2019年度に始まった幼児教育、2020年度から始まる私立高等学校、大学・短大・専門学校等の高等教育の無償化が、今後の社会にどのような影響を与えるかは未知数である。今までは「高い学費を払ったからしっかり勉強しなさい」と子供の教育に関わってきた親にとっては、今回の無償化により、むしろ教育に無関心になった可能性もある。同様に、奨学金を借りたり、アルバイトをしたりと、学費を捻出してきた学生自身も、その必要性がなくなることにより、その時間を学習時間に当て、学力が向上するかと言えば疑問である。

それができるのなら、義務教育で既にできていたはずだ。もちろん、国が目指す人材の育成には、多少なりとも効果が出てくる可能性はあるが、幼児教育はさておき、高等教育はある程度の経済的負担が無ければ、モチベーションの向上には繋がらないのではないか。

(3) 国家試験合格率 100%に向けた対策

さて、前置きが長くなったが、本校の卒業生の国家試験合格率は全国平均を超えてはいるものの、100%合格に至っていない。このような現状を踏まえ、今後の在校生、入学生の国家試験合格を100%にするためにどのような対策を取るべきか、研究していきたい。

そこで、今回の研究ジャーナル創刊を機に、基礎学力がどのように高等教育に影響を及ぼすかを追究するため、第1弾は卒業生の実績に焦点を絞り、在学時の学業成績(GPA)と国家試験の合否について、データを解析してみることとする。

2. 調査目的

卒業生全員の資格取得を果たすために、卒業生の在学時の学業成績(GPA)と国家試験合格の相関関係を解析し、在校生の修学指導に当たる際の参考資料とすることを目的とする。

3. 調査方法

(1) 調査対象

本校の両学科6期から11期卒業生

(2) 対象人数

対象人数は以下の表1のとおりである。

(表1)

期	救急救命士学科	柔道整復師学科
6期	24人	14人
7期	27人	12人
8期	34人	16人
9期	21人	10人
10期	23人	8人
11期	24人	9人
計	153人	69人

(3) 学業成績の数値化(GPAの算出)

GPA(Grade Point Average)とは、学生の成績評価方法の一つで、履修科目の成績の1単位あたりの成績平均を数値で表す。

学生へのGPAの通知は、成績表に記載することにより周知する。GPAの結果を学生自らが確認し、自分の履修計画の点検材料として積極的に活用するものである。

なお、本校としてはGPAを成績順位等の資料として活用し、最優秀賞などの選考等に用いる。また、GPAが低い(=成績評価が低い)学生に対して、今後の履修計画等に関する修学指導の材料とする。

成績評価については、「A,B,C,D(不受験を含む)」の5段階で評価し、C以上で合格となる。

また、GP(Grade

(表2)

Point)としては、「Aは3.0、Bは2.0、Cは1.0、Dは0.0」とする。

(表2)

GPAには年度ご

との成績により算出する「年度GAP」と入学からその時点までの成績で算出する「累積GPA」があるが、今回の研究では、入学時から卒業までの総単位による「累積GPA」を採用する。

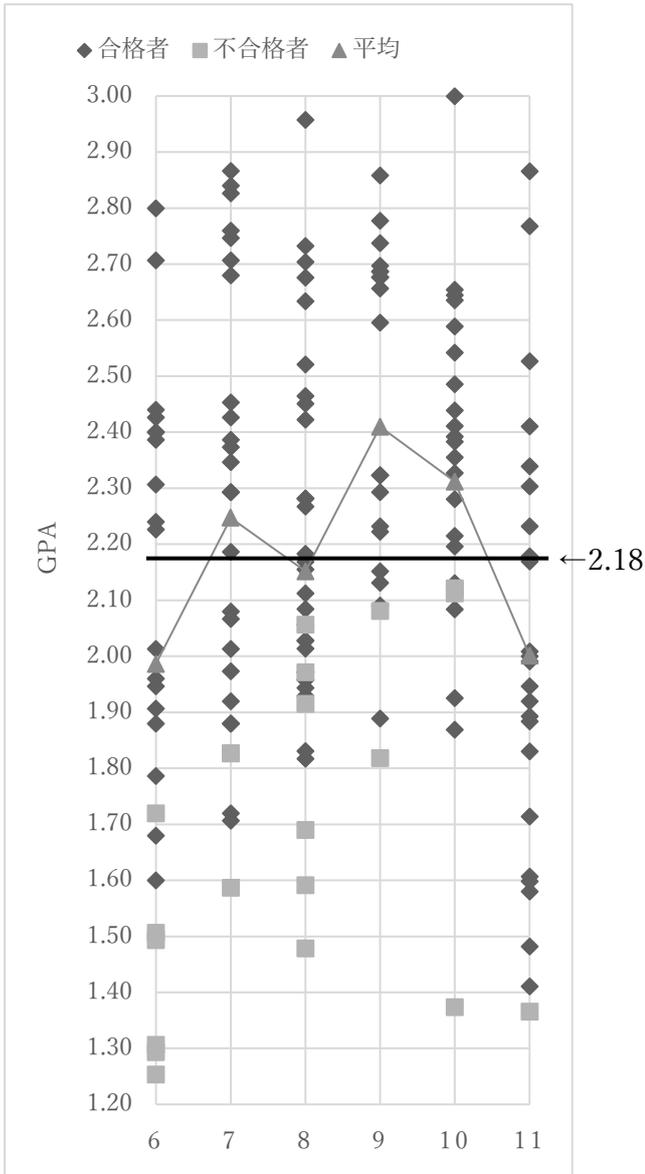
(4) 相関関係の解析

卒業生のうち、卒業時における国家試験受験者を対象に、国家試験合否結果とGPAの分布をグラフ化し、学科毎の年度別分布について解析する。

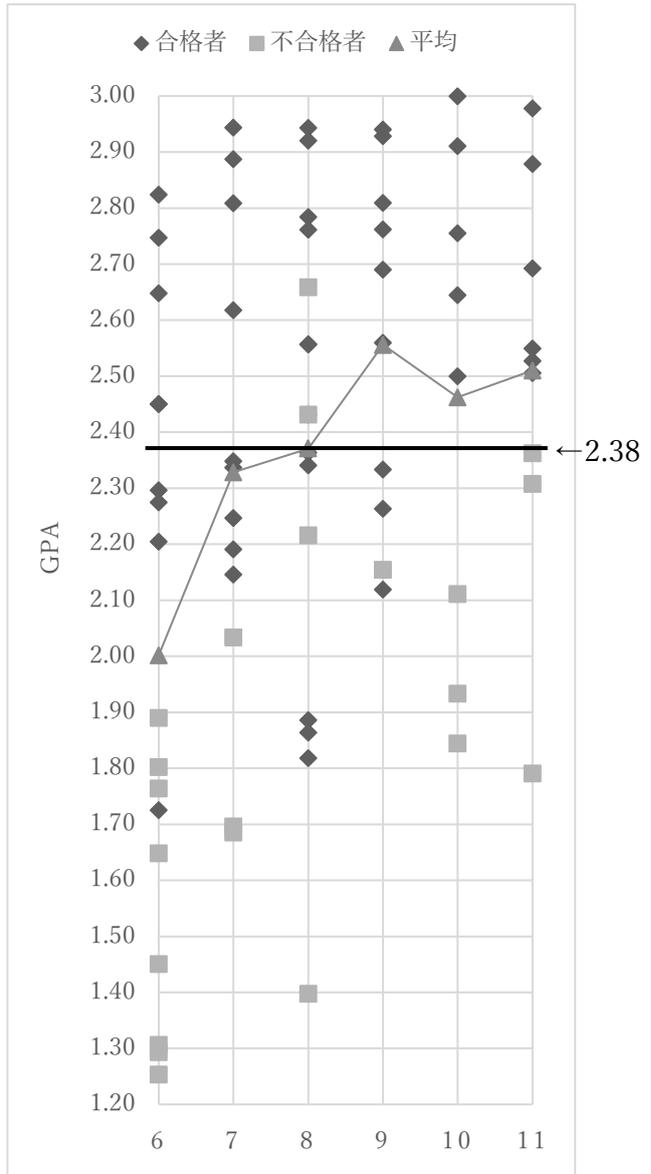
4. 解析結果

下の分布図は、各学科の卒業年度別にGPAの数値をプロットしたものである。各学科の6年間のGPA平均値は、3点満点で救急救命士学科が2.18、柔道整復師学科が2.38となっている。また、各学科の年度ごとのGPA平均を折れ線グラフ化し、年度ごとの推移を表した。また、それぞれの細かく分析したデータは表3・4に掲載した通りである。

(グラフ 1) 救急救命士学科の分布図



(グラフ 2) 柔道整復師学科の分布図



(表 3) 救急救命士学科の各種データ (国家試験は卒業年度の結果)

	6期	7期	8期	9期	10期	11期	GPA 平均	N 合計
GPA 平均	1.99	2.25	2.15	2.41	2.31	2.00	2.18	-
サンプル数	24	27	34	21	23	24	-	153
合格者	18	24	28	19	20	23	2.26	132
不合格者	6	3	6	2	3	1	1.69	21

(表 4) 柔道整復師学科の各種データ (国家試験は卒業年度の結果)

	6期	7期	8期	9期	10期	11期	GPA 平均	N 合計
GPA 平均	2.16	2.33	2.37	2.56	2.46	2.51	2.38	-
サンプル数	14	12	16	10	8	9	-	69
合格者	9	9	12	9	5	6	2.53	50
不合格者	5	3	4	1	3	3	2.25	19

5. 考察

(1) GPA 平均を基準にした際の合格率

救急救命士学科卒業生 153 名のうち、GPA 平均 2.18 以上の成績で卒業した学生数は 77 名で、その場合の国家試験合格率は 100%である。一方 2.18 以下の成績で卒業した学生数は 76 名で、うち 21 名が不合格となり、合格率は 75.58%という結果が出た。

同様に柔道整復師学科卒業生 69 名のうち、GPA 平均 2.38 以上の成績で卒業した学生数は 35 名で、そのうち 2 名が不合格となり、その場合の国家試験合格率は 94.29%である。一方 2.38 以下の成績で卒業した学生数は 34 名で、うち 21 名が不合格となり、合格率は 44.12%と 50%を切っている。(表 5 参照)

(2) GPA の基準を 2.1 にした際の合格率

各国家試験の全国合格率が異なっているため、2 つの学科を比較することはできないが、GPA に対する合格率からみると、GPA 平均を境に大きな違いがあることは同様にいえることがわかる。この数値は、今後の学生の修学指導において 1 つの基準になると言える。

仮に GPA 基準を 2.1 に設定した場合、基準を上回る卒業生の合格率は救急救命士学科が

97.67%、柔道整復師学科が 86.79%と GPA 平均を基準にした場合と比べ、それぞれ 2.33 ポイント、7.5 ポイント低下していることが分かった。

(表 6 参照)

6. まとめ

今回の研究結果により、学業成績 (GPA) と国家試験合格には強い相関がみられ、特に両学科の 6 年間の GPA 平均が一つの基準になることが分かった。今後、在校生の指導に当たり、GPA が基準に達していない学生への学修指導を強化することが重要であることは明確であるが、さらに掘り下げ、GPA が基準に達している者に対しても、GP が基準に達していない分野については、個々の強化が必要である。

今後の研究として、さらに年度、出身高等学校偏差値、内申点等の高等学校での成績を加味した分析をし、入学時からの底上げができるよう解析を進めていきたい。

文献

- [1] 文部科学省ホームページ：
<https://www.mext.go.jp>
[2] 6～11 期生「成績評価表」

(表 5) GPA を平均に設定した場合の国試合格率

学 科	平均以上		合格率	平均以下		合格率
	平均以上	うち不合格者		平均以下	うち不合格者	
救急救命士学科	77	0	100%	76	21	72.37%
柔道整復師学科	35	2	94.29%	34	19	44.12%

GPA 平均値：救急救命士学科 2.18、柔道整復師学科 2.38

(表 6) GPA を 2.1 に設定した場合の国試合格率

学 科	2.1 以上		合格率	2.1 以下		合格率
	2.1 以上	うち不合格者		2.1 以下	うち不合格者	
救急救命士学科	86	2	97.67%	67	19	71.64%
柔道整復師学科	53	7	86.79%	16	12	25.00%

受理日：2020 年 3 月 17 日